

令和4年度
穴吹小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学習規律の確立を図り、丁寧な学習習慣を身に付けさせる指導の工夫。
- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための授業実践。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践
(思考力、判断力、表現力などを育むための授業実践)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 杉浦 舞	委員 校長:大内 史郎 教頭:村上 功洋 研修主任:田上 史枝 西岡田 さつき 河野 敬子 北村 恵子 教務:村岡 陽平 原 友里江 6学年主任:大塚 優 5年主任:岩田 麻希 2学年主任:松田 徳子 平谷 菜美
------------------------	---

校長
大内 史郎

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告や調査など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には真面目に取り組む、指示されたことは、勤勉に取り組もうとする。 ○互いに協力して学習を進めていこうとする態度が育っている。 ●語彙の知識や自分の考えを伝える手法が十分に身につけていない。 ●算数科では特に定着具合の個人差が大きい。	・繰り返し学習を積み重ね、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得し、他の場面で活用できる。 ・学年に応じた話す・聞く力を身に付け、語彙を増やし、自分の考えや意見を伝えることができる。	・穴小5つの聞く力・話す力(あいいうえお)や発表の仕方を毎時間意識させ定着を図る。 ・めあてに沿ったふり返りを書かせるとともに、定期的ミニテストで定着度を図る。 ・自分の考えを伝える手法(図、式、言葉など)を身に付けさせ、対話的な活動を感染対策に留意しながら授業に取り入れる。 ・ドリル時間の充実を一層図り、一人一台のタブレットも活用しながら漢字・計算・読解問題を計画的・継続的に実施していく。 ・音読の仕方を指導し、音読発表会などの機会を設ける。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分がテーマを決めて書く自由作文などは、自分の思いや考えが明確に表れるようになった。 ●既習事項を活用して課題を解決していこうとする意欲に欠ける児童がいる。 ●子どもたちが学び合う場で、他者の意見と自分の意見を比べながら考えることが十分でない。	・友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、よりよい考えを見出し学習を深めることができる。 ・目的に応じて読んだり、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・新聞等も活用しながら自分の考えを根拠を明確にしながらかいて説明したり、友達の考えと比べながら聞いたりする活動を効果的に取り入れ、学び合う場をつくる。(ファシリテーターの導入、タブレットの活用) ・めあてに沿った文章を書くことや自分の思いや考えを明確に書くことを指導し、表現力を高める。 ・算数科では数学的活動を充実させた学習展開の工夫を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分で課題を決め、自主学習に取り組める児童が増えている。 ○週末の読書の習慣はできつつある。 ●家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いが、身に付いていない児童もいる。	・自分の夢や目標に向かって粘り強く取り組むことができる。 ・めあてをもって学習に取り組む、わかる喜びを味わいながら進んで学習できる。 ・幅広い分野の本に親しみ、進んで読書に親しむことができる。	・「家庭学習の友」を使って家庭学習の仕方を繰り返し指導し、手本となる自主学習ノートを紹介する。 ・基本的な生活習慣や学習習慣を意識づけるため、定期的に生活調査を行う。 ・お薦めの本を紹介したり、週末本を借りる活動を通して読書を家庭学習に位置づける。 ・タブレットの有効的な活用について共通理解を図り、単元を厳選して家庭学習でも活用する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

